

第一印刷株式会社

[事業実施テーマ]

地域特性を生じたECサイト「地域掘り出しサイト」の開発

企業紹介



「我が社の特徴を細かく説明します」と笑顔の伊藤代表取締役

取り組みの経緯



自社で手掛ける情報誌は事業者間のネットワークを築いてきた

印刷だけではとどまらない 地域拠点としての役割を担う

「ものづくり」という言葉から連想されるのはなにも製造業だけではない。地域の組織化・連携化に尽力している企業もまた、別の角度からそれに従事している。

葵区の与一に事業所を構える第一印刷株式会社は、印刷業を主とする企業だ。印刷のほか、パッケージ紙器の製造や情報誌の発刊を行っており、地元静岡に根差した事業展開をしている。

中でも、「かみ缶®」と呼ばれる円筒状のパッケージ紙器はそのデザイン性と紙特有の優しい風合いや軽さを備えており、茶筒などの様々なパッケージとして用いられている。

また、自社で発刊している静岡葬祭関連企業賛同ネットワーク情報誌「メモリット静岡」は、市内を対象とした葬家で発生する色々な問題に対する斡旋、仕入れ・販売、紹介、の3本柱の構成で情報の提供を行っている。

こうした取り組みは地元中小企業の相互交流に資していると言え、一企業としての限界を感じさせない事業展開や、技術革新に挑戦している。

自社の強みを考える 時代の潮流に合わせた変革を

伊藤代表が常に考えてきたことがある。それは「持っている強み」は何か、そして「持っていない強み」は何かという点だ。自分たちが持っている強みを最大限に活用することはもちろん、持っていないことで発揮できる能力もあると考え、印刷物を扱う点から情報誌の発刊に挑み、主力の商品がないことから、「かみ缶®」などを幅広く扱うことが可能だと気付けた。

こうした取り組みで、時代に合わせた事業の展開を図ってきた当社だが、地域の情報拠点としての役割は、IT技術の進歩した現代社会では、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の台頭により、規模が縮小していた。

物流規模や情報発信・拡散の効果の差は歴然であり、活用が難しい小規模事業者は事業規模の縮小を余儀なくされていたのだ。

そのような現状で、自社の強みは何かを改めて考えたとき、既存のコミュニティの活用と、業務で培われた画像の加工・編集技術を用いることで、サイト運営という新しい拠点活動ができるのではないかと思いついた。

[会社概要]

- 代表者名/代表取締役 伊藤均
- 所在地/〒420-0064 静岡市葵区本通 2-1-5 (登記)
- 取材地/〒420-0949 静岡市葵区与一 2-10-10 (工場)
- 設立年月/昭和 28 年 10 月
- 資本金/ 10,000,000 円
- TEL/ 054-272-1700
- URL/ <http://www.daiichi-printing.com/>



取り組みの内容



サイトの立ち上げに伴い、社員の持っているスキルも有効化出来た。

アナログからデジタルへ サイト作りで重要だったもの

当社が計画したのは「地域の特性を生かしたECサイトの開発」だった。時代の変化に合わせて、地域拠点としての役割を果たすためには、挑戦を続けなければならない。アナログからデジタルへの転換は課題の連続でもあった。

“EC”とは電子商取引(electronic commerce)の意でネット上での情報通信によって、商品やサービスの売買を行うことを指す、いわゆるネットショッピングと同義である。

取り組むにあたり、考えなければいけないのは運営だけでなく受注や発送といった部分をどこが行うかであった。

サイトの形式によって、運営が受注・販売を受け持つところもあれば、事業者が各自で行うところもある。

『サイトのあり方を考えたとき、とにかく小規模事業者の方には楽してもらおうと思った』と伊藤代表は語った。採用したのは各社が特徴を持てるモール型と、運営が画一的に管理できるマーケットプレイス型の両方。新たな試みに伴い、個人・小規模事業者にとつての敷居を少しでも低くしたいのはもちろんだったが、自社従業員の持っているスキル活用も念頭に置いての決断だった。

結果



サイト(シズボリ)はSNSと連携しており、手軽に情報発信が可能だ

“未組織を組織する” 小規模事業所再起のきっかけに

“未組織を組織する”をコンセプトに掲げ、ECサイト「シズボリ」は平成28年12月に開設された。静岡の未組織企業の商品を“掘り出し”、地域産業の交流や活性化を図るのが狙いだ。稼働してまだ間もないため、登録者数はまだ少ないが、Facebookとの連携を可能としているため、拡散力やグループ作りにはもってこいの環境となっているので、参加者の増大が見込まれている。

また、登録料は無料に設定し、出品も1点から気軽にできる。静岡に眠るニッチな逸品は、このサイトを介して世界的な発信が可能になった。

さらに、今後の運用方針として教育機関等と連携したサイトのPR活動も視野に入れているとのこと。『やはりネット時代には若い人の活力や発想が必要。そういった面をうまく取り入れて、サイトの発展に繋げたい』と伊藤代表は様々な事業計画を語っていた。

息切れし始めた県内未組織事業所に対する、ショッピングサイトという営業形態の提供は、新しいものづくりの形といえるだろう。